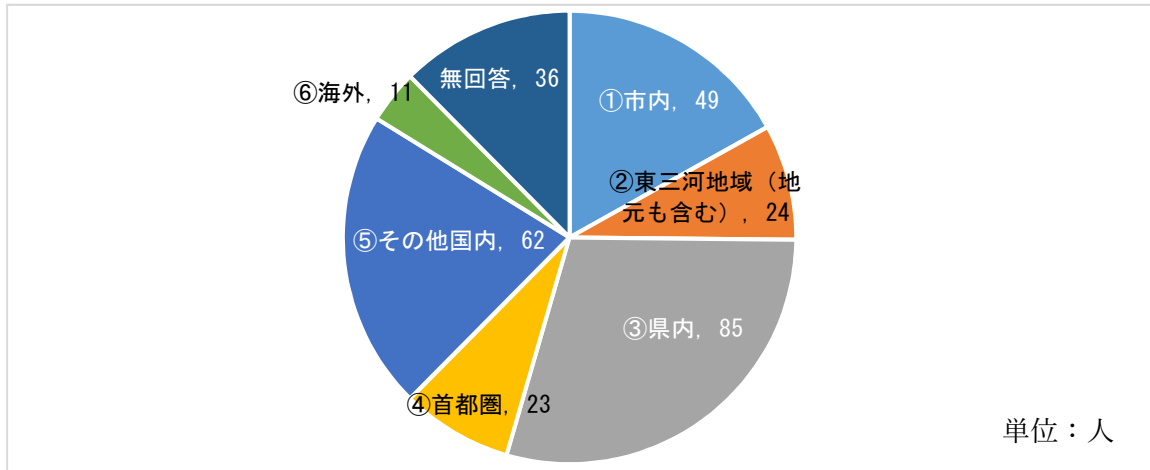


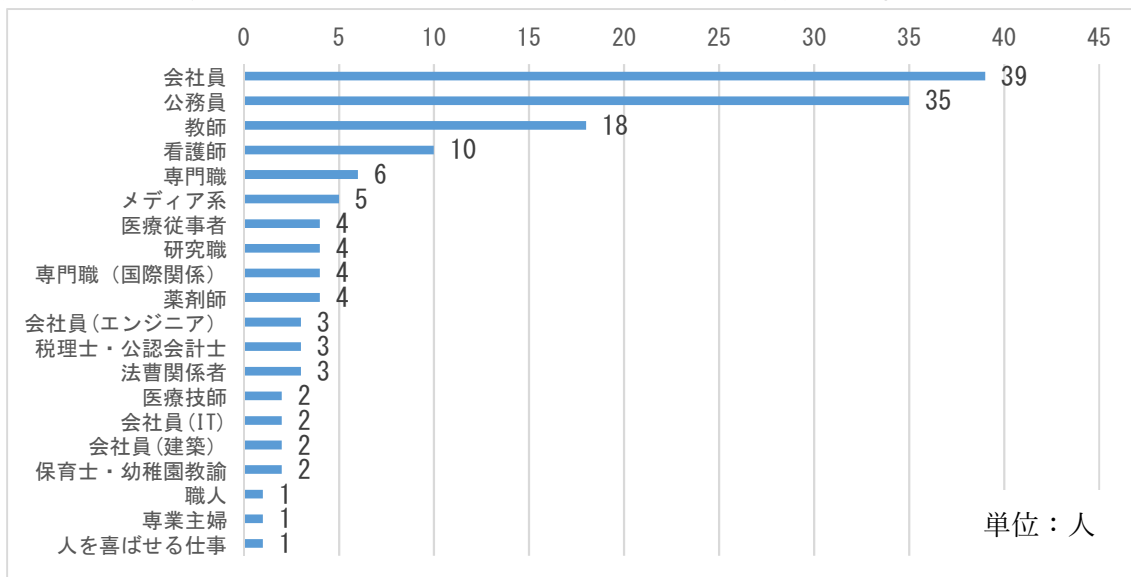
豊橋市内高等学校（1校）の2年生を対象としたまちづくりアンケート 及び同校の授業を活用した政策提言

1. まちづくりアンケート

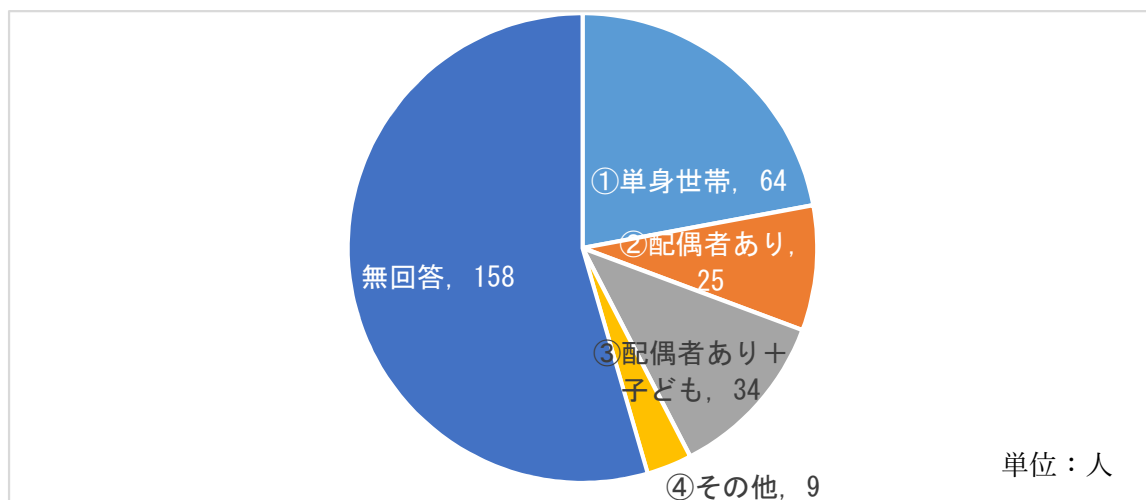
(1)-1 10年後、自分がどこで何をしていると思いますか（場所）



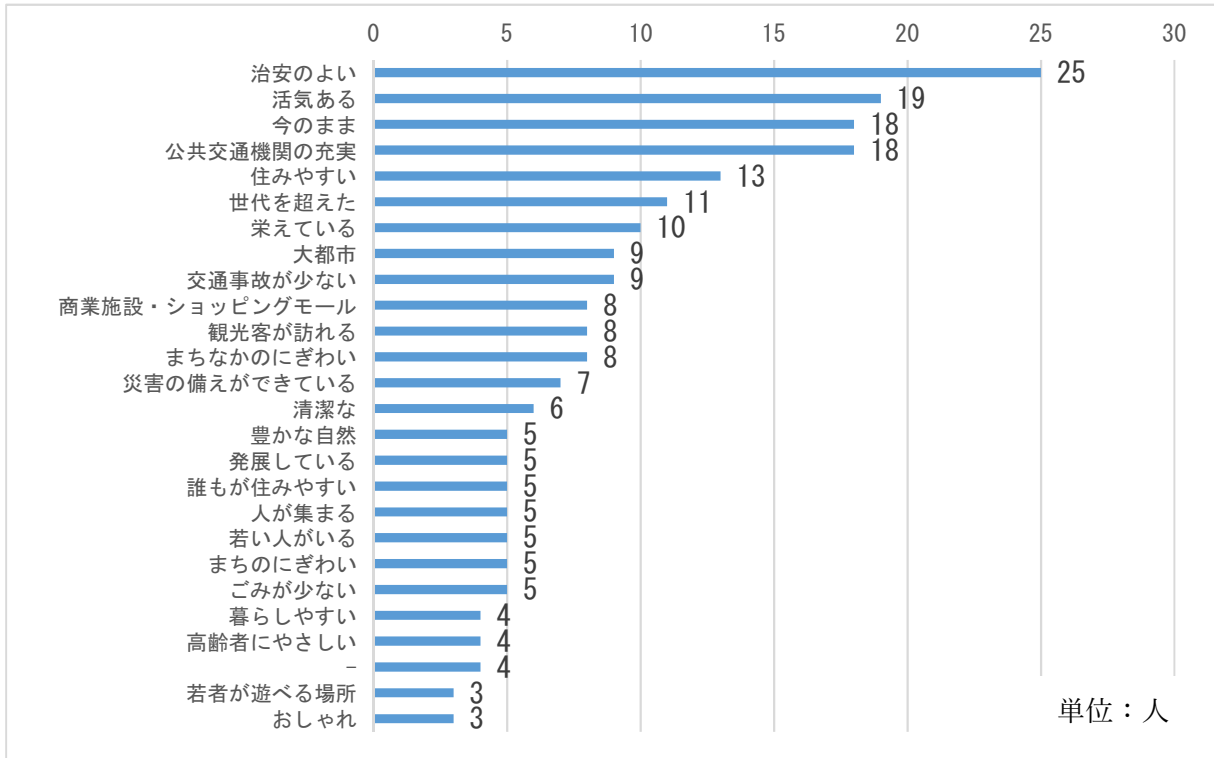
(1)-2 10年後、自分がどこで何をしていると思いますか（職業）



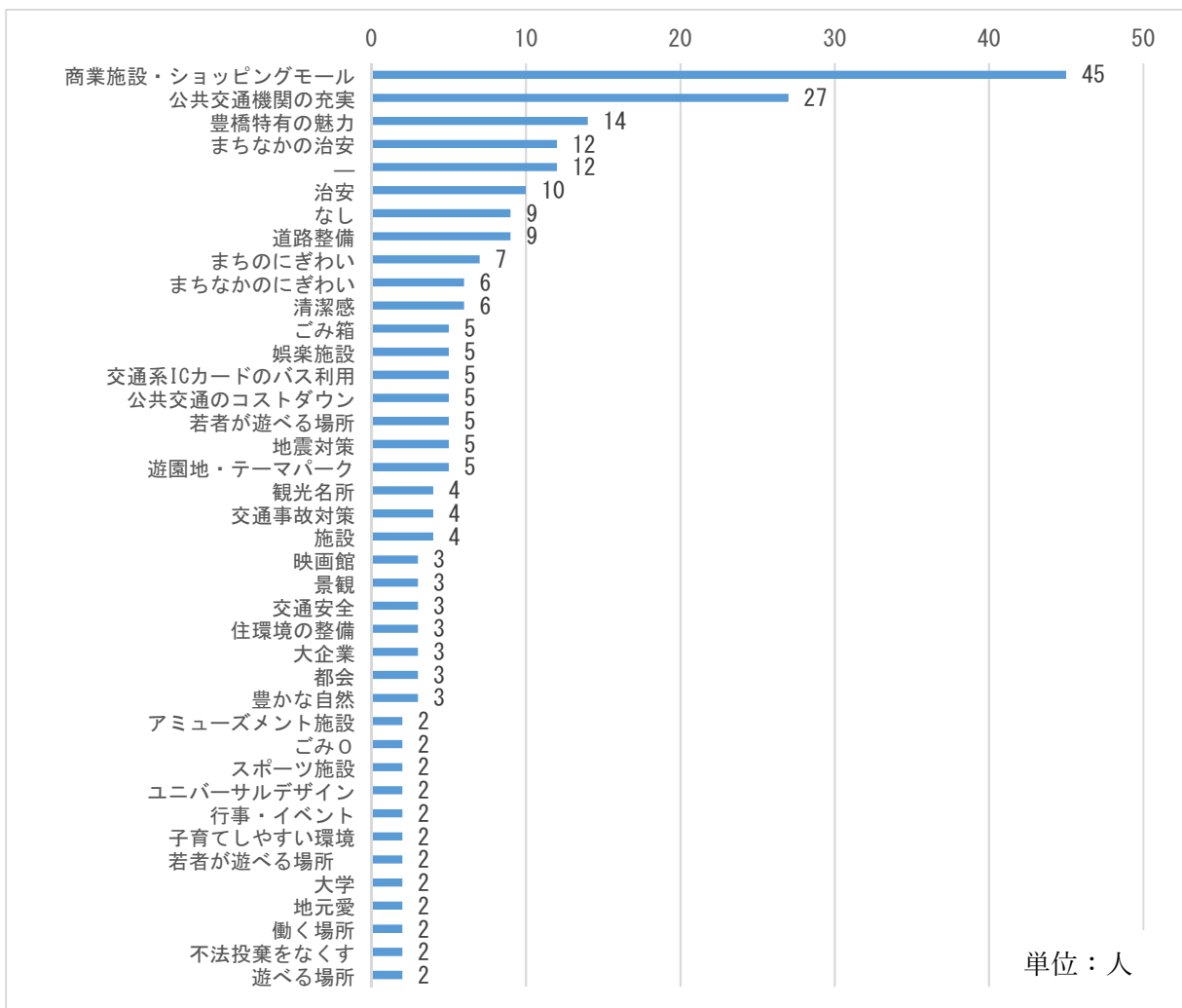
(1)-3 10年後、自分がどこで何をしていると思いますか（家族構成など）



(2) 10年後豊橋がどんなまちになってほしいですか



(3) 豊橋に住み続けたいと思えるために足りないものは何ですか。



2. 政策提言

<h3>1 豊橋の農業の特色と今後の展開</h3> <ul style="list-style-type: none">・ 中学高校と好奇心多感な時期に農業に触れることで、より深く興味を持ってもらえるよう農業関連の学校の増設・ スマート農業の導入、植物工場、農地バンク・ 小学校の総合の授業で農業を取り入れる・ ふるさと納税の品目の追加、「豊橋ええじゃないか通販」での定期便、農業の新規参入者と後継者がみつからない農家とをつなぐネットワークの作成、農業に関するワークショップの開催、農業バイト
<h3>2 豊橋に人を呼び込む</h3> <ul style="list-style-type: none">・ ブラックサンダー＝豊橋ということを推して全国の人に豊橋を認知してもらい、豊橋に観光客を呼び込む。そこで豊橋をブランド化させ、東海地方から全国へ知名度を広げていく。・ 聖地巡業などで「ロケのまち豊橋」の発展とともに、豊橋国際マラソンの開催、水上ビル周辺の道路や水上ビルの耐震性を上げる工事や二川地区（のんほいパークや二川宿本陣等）など既存施設の活用・ 豊橋に来て元気になっちゃおうプロジェクト（TGP）の実施（のんほいパークや豊橋公園などを1日かけてまわるツアーのこと）・ SNSを活用して「おしゃれな街とよはし」を発信する
<h3>3 魅力と活力ある中心市街地の形成</h3> <ul style="list-style-type: none">・ 豊橋駅周辺を中心に映画館や、ボウリング場などの娯楽施設や商業施設を建設する。「ほの国百貨店」跡地を利用。現在進行中の図書館の中に子育て世代が利用しやすい空間を作る・ 人がよりつかない場所だとゴミが投棄されやすいので、例えば pokemon GO のポケスポットとして申請するなどして人が集まる場所・ 現在あるはしご酒の応用になるが、各年代に合わせた豊橋市内の飲食店やスポットをビンゴ形式で巡ってもらい、ビンゴするといろいろな割引券や図書カード、子供向けにお菓子などの景品をもらうことができる。・ 豊橋市には様々なイベントがあり、自然も豊富で、魅力あふれる街であるから、それをSNSで発信し、豊橋市中心部への移住を勧める。
<h3>4 災害から都市を守る</h3> <ul style="list-style-type: none">・ 災害時の理論上最大モデルのマップの配布、災害のエキスパートによる講習会、絶対に壊れない堤防の建設、避難所の建設をもっと行う。資金は一般市民から募金などを活用。・ ペットと一緒に防災訓練や避難所において、ペットが同伴可能なスペースを作ったり、リーフレットを作成したり、説明会などを開いて、市民へ発信する。・ 「ポケットーク」や「グーグル翻訳」などを多用して、外国人と日本人でコミュニケーションを図る。・ 市内の電柱などに津波発生時に、洪水が発生した際にどれくらいの水が来るのかがわかるように記をつける。津波の到達推定時間なども一目で見てわかるように表示する。

5 廃棄物問題とその対応

- ・プラスチックストローをパスタストローにかえる。プラスチック包装を紙などで代用レジ袋を使わずにマイバッグを使用すること
- ・パン屋などで閉店間際になったら商品の安売りを始める。子供のうちに「もったいない」という考え方を育むために幼稚園や小学校で教育をおこなう。
- ・廃棄する食品に税金をかけたたり、ごみ袋の値上げをしたりする。また、保存方法や、食べられる部分を有効かつ簡単に作れるレシピを考える。三つ目は、消費者に食品の期限が実際より、2割ほど早く設定されていることを知ってもらう。期限の切れた商品を、譲り受ける無料スーパーという店舗を設置する。
- ・古紙分別についてのポスターを古紙で作って張り出す。ただし、汚れた紙は古紙として回収できないため、きれいに紙を使うよう啓発する。学校内の目立つ所に古紙回収ボックスを設置し、定期的に回収できるようにする。

6 都市の公共交通

- ・バスがどこを走っているかわかる、時刻表がわかりやすいアプリの活用、ポスターでの認知、穂の国パスポート、ICカードの導入
- ・免許返納の年齢を条例で繰り下げ、駐車場を減らし、駐輪場に変更する。
- ・バス専用レーンを造ります。次に、コミュニティバスのように路線バスもGPS機能を取り付けます。また、電子マネーを路線バスでも利用できるようにします。
- ・バスの遅れを解消するために浜松市と遠州鉄道が行ってきた「オムニバスタウン構想」を参考にバス交通の活性化が必要だと考えます。主な提案として、ICカード利用の導入、バスレーンの認知度の向上、通勤・通学バス、雨天増便バスの導入があります。

7 高齢化の進行による高齢者施策の展開

- ・高齢者のためにイベントを行い参加者にポイントを与える。与えたポイントを使って市内のサービスをお得に使える制度をつくる。
- ・人とかかわることで認知症を発症するリスクが減少するため、老人ホームと幼稚園が連携し定期的に高齢者と園児たちを交流させることも提案する。
- ・回覧板を直接渡したり、地域のイベントなどに高校生も参加したりすることで、近所に住むお年寄りの方々と交流を持つ。単独世帯で自力で生活できる高齢者を集めて、シェアハウスを作る。自分たちの祖父母にイベントの参加を勧めることです。

8 地域共生社会の形成

- ・大人の外国人住民対象に、ひらがなの読み書き、あいさつ・日常会話などの日本語、日本の生活習慣・生活ルールや、日本の災害について学べるオリエンテーションコースの参加を義務化
- ・外国人住民マニュアルをSNS 拡散する。日本文化に親しんでもらえるイベントを開催。
- ・高校生と外国の子供たちとのサッカー交流。高校生が主となって行動することで、多文化共生への理解を深める。
- ・各高校に国際学級を作る 具体的に、外国についてよく知っていて外国の生徒に理解のある人を担任に適用し外国人生徒が学校に通いやすい環境を作る。日本人の生徒との交流の機会を作る。 同じ環境に置かれている外国人生徒同士一緒に生活できる環境を作る。外国人生徒が安心して通える学校を作る。